

兵庫県昆虫年表

高橋 寿郎

はじめに。室井 紳博士が「兵庫県生物年表」を1975年に発表された(姫路学院女子短期大学紀要, 第3号)のを拝見して昆虫に関しての事項が案外と少いので昆虫のみの年表を作製して見たらと考えてまとめたのが本表である。

作ってみてつくづく力不足を感じた。やはり古い所の文献が充分で無い, それと県下の公的機関の研究状況とか出版物が見られない。各学校での研究会の活動状況等もわからない等等で大変大雑把なものになってしまった。まあ兵庫県に於ける昆虫研究の歴史的流れを眺めて頂くことが出来れば良いと思う次第である。

重要な文献の見落としとか浅学による誤りも多々あること、思われる御叱正、御教示を頂くことが出来れば幸である。

尚同一年内の取載事項の前後は根拠がない。

本表作製には多くの方々の御援助、御協力を頂いている一々芳名は記さないが厚く御礼申しあげさせて頂く。また文中の人物の敬称は省略してある。お赦しを乞う。

950 ・ 播磨、丹後にイナゴ害甚大(兵庫県生物年表)。当時(701, 大宝1年)の記録で蝗(オウネムシ)の被害が生じるとある。蝗といってあるのは稲の害虫の総称であって主として螟虫とウンカを指示したものであろう(日本博物学史)。

1017 ・ 丹波、但馬、摂津、播磨などイナゴ害甚大。寛仁元年 ことに丹波の被害はもっとも大きかった(兵庫県生物年表)。この場合のイナゴと言うのも蝗害のことで主として螟虫とウンカの意味だと考えられる。

1456 ・ 伊勢、三河、相模、近江、丹波、但馬六ヶ延暦15年 国の女二人宛を陸奥に遣わし2年間養蚕法を伝習せしめる。

1803 ・ 正月「養蚕秘録」巻上, 中, 下三冊刊。但享和3年 馬国養父郡蔵垣村(大屋)の人, 上垣伊兵衛守国著, 京都の法橋西村中和, 速水春暁

斉画, 京都, 須原屋平佐衛門梓, 美濃紙版, 絵入, 九五丁。養蚕について記述したものであるが, 巻上のはじめに, 日本蚕始りの事, 中華蚕始りの事, すなわち養蚕の歴史を載せ, また虫おくりの記事ならびに絵がある(日本博物学史)。

1826 ・ 正月23日(陽, 3月1日), シーボルト一行下元治9年 関を起航, 瀬戸内海を東へ向かい, 室津(兵庫県揖保郡)に上陸, 2月1日, 室を發し陸路を竜野, 姫路, 兵庫, 西宮を過ぎて5日大阪に入る(日本博物学史)。

1864 ・ イギリス人ルイス(G. Lewis)長崎に元治1年 来り明治5年まで在留す。その間, 長崎, 兵庫, 大阪を中心に甲虫を採集し自身ならびにヨーロッパの専門家の研究に資料を提供わが邦並びに兵庫県の甲虫研究の基礎をおいた(日本博物学史)。

1872 ・ 3月5日, 松村松年, 兵庫県立明石郡大明石町東片端に生れる。明治28年札幌農学校卒業。昭和9年退職時北海道帝国大学教授。日本の昆虫に就いての研究報告は多数に及ぶ。また各専門家の研究資料に提供もされている。県下産のもので新種記載も多くされている。昭和35年(1960)11月7日没。年88才。

1874 ・ ドイツ商人レンツ(Lenz, Tuiscon)は神戸明治7年 に滞在期間(1874~1880)中多くの甲虫を採集ドイツに標本を送って専門家に研究をゆだねる。中に良く知られたキョウトアオハナムグリがある(高橋寿郎, 兵庫生物, 1978)。

1875 ・ ドイツ大使館顧問レイン博士(Dr. Johan J. Rein)は1875~1876年日本に滞在漆器や陶磁器, 製紙等の調査をする一方各地を旅行し昆虫の採集をする。兵庫(神戸)には明治8年に1回, 明治9年に2回採集に来ている。この内甲虫に就いてはL. V. Heydenが

- 2つの論文を発表している (1875, 1876)
(村山醸造, 昆虫研究, 1938)。
- 1881 ・ イギリス人ルイス (G. Lewis) 再度採集旅
明治14年 行のため来日, 6月4日~9日, 兵庫, 湊川, 三
宮, 摩耶山で主として甲虫を採集す(月刊む
し, 1971)。
- 1888 ・ 11月東京動物学会から「動物学雑誌」創刊
明治21年 さる。
- 1897 ・ 名和 靖, 雑誌「昆虫世界」を創刊する。
明治30年 菊版 (1946年通巻543号で廃刊)。
- 1898 ・ 10月5日松村松年著「日本昆虫学」一冊刊,
明治31年 東京, 裳華房。菊版クロス装。本文 263
ページ, 挿図229, 索引26ページ。本邦にお
ける昆虫学の成書として初めて (日本博物
学史)。
- 1900 ・ 大上宇一, 播磨昆虫雑記 (昆虫世界, IV・
明治33年 1), 播磨蝶類報 (動物学雑誌, VII: 139)を
発表。邦人による兵庫県で初めての昆虫に
関する報文を発表される。また大上宇一は
本県の昆虫採集を初めてやった人である。
- 1901 ・ 樽谷明吉「六甲山の南御影地方の蝶」35種
明治34年 を報告する (動物学雑誌)。
・ 大上宇一は揖保郡を中心とした播磨地方の
甲虫相を「動物学雑誌」上にこの年9篇,
翌1902年に2篇, 1903年に1篇を発表する。
以上9篇で349種の甲虫が記録されている。
・ 苗代の螟虫を小学校児童に採集させるため
先生の指導で螟虫の卵と成虫をとる。この
行事が昭和20年まで続く。当時100本(卵)
を1銭で買いあげた (兵庫県生物年表)。
- 1906 ・ 大上宇一「播磨産甲虫類」を1907年につ
明治39年 て5篇に分けて発表し 299種を記録する。
1901年の報文より同定の確実さが増加して
いる (動物学雑誌, 10, 11巻)。
・ 井口宗平, モンキアゲハ佐用郡にて目撃の
記録 (昆虫世界, X・10)。
- 1907 ・ 井口宗平「兵庫県佐用郡産蝶類目録」を
明治40年 表, 7科68種を記録する (昆虫世界, XI・9)。
- 1908 ・ 井口宗平, 「兵庫県佐用郡産昆虫目録」と題
明治41年 して膜鱗双甲の四目を除いて発表 (昆虫世
界, VII: 127-133), 10目, 343種が記録さ
れている。佐用郡半翅類目録は207種を130
-133号に発表されている。
- 1909 ・ イギリス人ルイス (J. E. A. Lewis) ボルネ
明治42年 オ国会議書記官を退官, 永住の地を神戸
市の原田にもとめて来日, 死去まで (1938
年1月8日神戸にて死去) 神戸を中心に多数
の甲虫を採集, イギリスに送って同地の研
究者に研究を依頼した。氏が発見神戸の名
を冠した甲虫も多くある。氏が専門家に送
って名称の決定された標本は 2,538もある
と (関西昆虫雑誌, 第5巻)。
- 1915 ・ 大日本昆虫学会機関誌「昆虫学雑誌」創刊
大正4年 号発行さる(京都)。発起人は野平安芸雄,
江崎悌三, 芝川又之助, 鈴木元次郎で兵庫
県にも関係のある方もふくまれている。ま
た同誌上には兵庫関係の報文も発表された。
同誌は第4巻, 第1号(1919)で廃刊となっ
た。
- 1916 ・ 3月27日芝川又之助死去, 享年27才。氏は
大正5年 住居の関係で須磨, 甲東園での昆虫採集を
可成りやっておられた。それらの採集品を
もふくめた所蔵標本目録が死後発刊された
(紫水遺稿, 別巻, 1936)。
- 1926 ・ 日本昆虫学会の会誌「昆虫」創刊 (東京)。
昭和元年・赤穂にはじめての松喰虫の記録がある。そ
の後昭和10年ごろ赤穂市有年を中心に大繁
殖, つづいて昭和23年に 800万本, 昭和48
年にも大発生する (兵庫県生物年表)。
- 1929 ・ 蝶類同好会の季刊雑誌「Zephyrus」創刊さ
昭和4年 る (福岡)。
- 1930 ・ 関西昆虫学会々報創刊号出版さる (大阪)。
昭和5年 関西昆虫学会発起人, 寺西 暢, 戸沢信義,
岩田正俊, 竹内吉蔵, 松田良作 (昭和5年
11月創刊, 昭和25年11月, 15巻2号をもっ
て終刊)。
・ 小林賢三「六甲山の蝶相」。戸沢信義「甲山
附近の蜻蛉と蜻蛉類」発表さる。共に夫々

- のグループの県下からのまとまったファウナ報告として大上, 井口以後のものとして貴重 (関西昆虫学会々報, 第1号)。
- 1931 • 兵庫県博物学会設立されその会誌創刊号出版される (会誌は20号, 1941まで発行される)。
- 1932 • 関西昆虫学会時報創刊される (昭和7年3月創刊, 昭和7年9月第4号をもって終刊)。
- 1933 • 昆虫趣味の会 (加藤正世主宰)の機関誌“昆虫界”が2月に創刊される (東京)昭和18年12月, 11巻, 117/118号をもって終刊。戦後復刊して昭和29年11月, 12巻, 120号が発行され, 昭和37年15巻, 127号で廃刊となった。
- 関 公一「御影町付近産の甲虫目録」(昆虫界, 第1巻)の中で文献上初めてキベリハムシの六甲山麓での報告をされる (勿論日本から初めての記録)。尤もキベリハムシそのものは大正初め頃中国大陸から入国定着していたようである (高橋寿郎, 六甲山の昆虫たち)。
 - 関西昆虫学会より“関西昆虫雑誌”創刊される (昭和8年3月創刊, 昭和14年6月第5巻, 第3号をもって終刊)。
 - 東京の上野松阪屋で昆虫趣味の会と読売新聞社共催の“昆虫展覧会”が開催される。出品目録の中に鳥居 茂が兵庫県立第二神戸中学校博物教室刊“博物研究(三)”並びに兵庫県立第二神戸中学校博物同好会々報の出品が記録されている (昆虫界, Vol.1, No.6, 1933)。この2書実物を見たことが無いので (学校の博物教室, 研究室にも保存されていなかったように思う), どのような内容か, また何時から発行され何時まで発行されていたか等々も不明。
- 1934 • 松喰虫のため姫路城のクロマツ17本, 高砂尾上の松など枯死する (兵庫県生物年表)。
- 1935 • クリタマバエが西播地方に大発生し, 日本中に広まる。山林のシバグリ大被害を受ける (兵庫県生物年表)。
- 兵庫県立第二神戸中学校博物研究会々誌“Nature”第1号出版される。本誌は第9号 (1939) まで発行される。
- 1936 • 竹内昆虫研究所 (竹内吉蔵主宰, 京都, 山科) より欧文昆虫研究誌“Tenthredo”創刊される (昭和11年5月創刊。昭和17年11月に第4巻, 第1/2号を発刊して廃刊となる)。
- 灘中博物研究部々誌“Natural”5号、発行される (創刊の時期不明)。
 - 少年昆虫研究会々誌“Insecta”創刊される (三木市)。
- 1937 • 竹内昆虫研究所より昆虫学評論雑誌“あきつ”創刊される (昭和12年5月創刊, 昭和18年5月第3巻, 第4号を発行して戦争のため休刊)。戦後“京都昆虫同好会”によって第4巻, 第1号が昭和30年(1955)4月出版, 第13巻, 第1号が昭和40年(1965)11月に出版されて再び休刊となる。昭和49年(1974)12月こんどは“Akitu, New Series”としてその第1号が京都府立大学の昆虫学教室から出版された (笹川満広博士主宰)。不定期刊行のようである。
- 関 公一昆虫趣味の会神戸支部長を受諾される(大阪支部長兼任)(昆虫界, 第5巻, 第40号)。
- 1938 • 昆虫趣味の会神戸支部報No.1発行される (同支部報はNo.6, 1941まで発行された (昆虫界, Vol. VI, No.49 & Vol. IX, No.88)。
- “兵庫県中等教育博物学雑誌”を山鳥吉五郎が中心となって発行する。第7号で戦争のため廃刊となる。
- 1939 • 宝塚昆虫館, 5月13日開館。初代館長に戸沢信義就任 (当初宝塚文芸図書館長と兼任)。49年(1974)7月19日閉館。その後宝塚科学館となり鳥類標本などを主にする。1979年には昆虫標本約18,000点, 鳥の剥製1,800点が大阪市立自然史博物館に寄贈されその一部は1980年3月22日~4月27日同館にて一般に公開された (Nature Study, Vol.26, No.3)。
- 神戸博物同好会 (神戸二中内) 会誌“Nature”創刊される (創刊号のみ)。
 - 神戸博物同好会 (神戸大丸内) 会誌“博物趣味”創刊される (第5号まで、廃刊)。
- 1940 • 松喰虫, 赤穂有年を中心に大発生, 全県下

- 昭和15年 に拡がる。昭和45年直接の加害者はマツノ
サイセンチュウと判明する(兵庫県生物年
表)。
- 9月“宝塚昆虫館報”創刊さる(昭和26年
第79号で廃刊となる)。
 - 二中博物研究会々報創刊さる(現兵庫高校)
(第5号まで発行)。
 - 兵庫県立第二神戸中学校動物博物愛好会,
園芸部共同出版“観察、1号”発行さる。
- 1941 兵庫県立第一神戸中学校博物学会より“一
昭和16年 中附近の昆虫、出版さる。
- 1942 7月20日鈴木元次郎岐阜谷汲で死去。
昭和17年 昭和5年(1930)頃より明石で花園昆虫研究
所を開設していた。何時までか詳しくわか
らないが筆者が訪問した時(1939年頃)元気
でキベリハムシの文献に就いて教示を受け、
タイプで執筆中であつた“日本産オサムシ
の目録、を見せてもらった。
- 1945 ウンカ大発生、除虫油を協同購入する(兵
昭和20年 庫県生物年表)。
- 1946 害虫駆除などのためDDTを散布する。昭和
昭和21年 45年まで続く(兵庫県生物年表)。
- 柏原高校生物班会誌1号発行さる。会誌は
4号まで発行され第5号(1950)から *Natura*
となって発行される。
- 1947 青色蛍光誘蛾灯をズイムシ撲滅のためにつ
昭和22年 ける。疑問の結論が出たのと、有効殺虫剤
の出現で中止となる。
- 害虫駆除剤BHC出現、昭和45年まで続く(以
上兵庫県生物年表)。
 - 兵庫県生物学会発足する。
 - 10月虫同友会結成さる(発起人、吉阪道雄、
岡田 弘、法西定雄)。12月に会報No.1が発
行されニュースが1948年8月発行される。
その他研究報告1,2(1955,1959),兵庫版No.
1(1951),ニュース別刷(1954)等々の出版
あり(現在MDK NEWSのみ出版継続さる)。
- 1948 松山確郎編集発行“水上郡の自然研究、第
昭和23年 1号”が発行さる。昭和36年79号まで“氷
上の自然、へ発展。
- 兵庫県生物学会々誌“兵庫生物、創刊さる。
 - 東 正雄、有馬温泉林溪寺内でラミーカミ
キリ大発生を報告。本種の本州並びに兵庫
県での初記録となる(新昆虫, Vol.1)。本種
は現在兵庫県下には広く分布普通種となっ
ている。
 - 戸沢信義“昆虫を採る箕面・能勢、出版さ
る(京阪神叢書, 9, 宝書房刊)。著者戸沢氏
からの御教示で能勢の調査は兵庫県に属す
る地域のものが多くふくまれていると。
- 1949 松喰虫の被害、最大のピンチになる(公害・
昭和24年 兵庫県の生物)。
- 水上郡教員組合篇“水上の自然”発行する。
 - 県生物学会編“郷土の生物(1)”を神戸新聞
社から出版する。
 - 兵庫県生物学会小野支部報“*Viola*”創刊さる。
- 1950 神戸昆虫同好会々誌“*Tritoma*”創刊さる
昭和25年 (創刊号のみ)。
- 樋口繁一などによって“有馬郡生物誌”を
有馬高校から出版。
- 1951 中国昆虫学会々誌“*Entomological Invest-*
昭和26年 *igation*”創刊さる。
- 尼崎蝶類同好会々誌“*Saphirinus*”創刊さる。
 - 甲陽学院高等学校生物部々誌“生物甲陽”
創刊さる(生物部の誕生は1949年)。
- 1952 箕面蝶類同好会誌“*Lilac*”創刊される。
昭和27年
- 1953 “ひかみの自然、第二集”(A5, 118p.) 発行さ
昭和28年 る。
- 1954 アメリカシロヒトリ、アメリカから渡来し
昭和29年 サクラその他に各地で被害大発生する(兵
庫県生物年表)(アメリカシロヒトリが日本
で初めて採集されたのは1954年11月東京大
森で山本正男によるとされているが同じ年
尼崎でも発生している。日本に定着した時
期ははっきりしないがこの年以前と考えら
れる。アメリカシロヒトリ, 中公新書, 1972)。
- 1955 神戸昆虫同好会結成さる。(大倉正文主宰)。
昭和30年 本会は毎月1回の採集会と冬季の談話会(会

- 員宅巡廻)のみで会誌の発行がない。
- ・ 神戸生物クラブ設立さる。初代会長古川博二。本クラブは神戸大丸が後援して神戸市内の小,中学生を対象として4~11月の間月1回の採集の指導会(例外もある)。毎年8月最終土・日曜日の採集品鑑定会,9月の作品展が主な行事であり当初顧問13名で出資した。現在でも継続されている。戦前の神戸博物同好会が姿を変えてこの会になった。
- 1956 ・ 10月25日から11月11日まで県生物学会, 神戸新聞共催で天皇のご来神を記念し「兵庫県生物展」を神戸新聞ホールで開催さる。
- ・ 県生物学会編「兵庫県生物誌」(A5, 95p.) 発刊さる。
 - ・ 姫路市, 相生市両水源池並びに揖保郡太子町の井戸から森本義信等によって特殊な環境で変った形態をしたメクラゲンゴロウが発見される。翌1957年にはこの亜種が発見,さらにムカシゲンゴロウも見出された。共に他府県の産地のほとんど知られていない珍しい種である(兵庫県生物展)。
 - ・ 丹波昆虫研究会が結成され会報「丹波昆虫」創刊さる。この会は福知山高校, 綾部高校の人達为中心となり副会長には当時の柏原高校の山本義丸が任命され, 京都府, 兵庫県両方にまたがる昆虫研究会であったが会報第3号(1957)以後どうなったのか不詳。
- 1957 ・ 西村 登「円山川水系の水生動物群集」を日生態会誌, 6巻に発表。県下で陸水生物相の研究の先鞭をつけ, 続々と論文を出す。
- 1958 ・ 山本義丸「兵庫県水上郡昆虫目録」(水上の自然, 第3集, Nature特別号, A5, 134p.) 発刊さる。
- ・ 神戸電鉄より「沿線の自然界」出版さる(A5, 32p.)。
 - ・ 堀田 久「西宮を中心とした阪神地方の蝶類」出版する(自刊, 12p.)。
- 1959 ・ 日本応用動物昆虫学会中国支部が結成されその会報が創刊さる。
- ・ 室井 綽編「六甲の自然」(新書版, 173p. 六月社刊) 出版さる。
- 1960 ・ 県生物学会編「兵庫の自然」のじぎく文庫 昭和35年 から出版される。
- ・ 11月兵庫農科大学生物研究部々誌創刊さる。本誌は第4号(1964)まで発行。
 - ・ 兵庫県立長田高校生物部々誌「羊歯」8号出版される。タイプ印刷は本号が初めてとのこと。何年から会誌を出していたのか不詳。また第10号(1962)以後の発行も不詳。
- 1961 ・ 六甲山の松喰にヘリコプターで DDT を散布し多くの昆虫類を死なす。ことにマヤサンオサの屍に驚く(公害兵庫の生物)。
- ・ 西村 登「円山川の昆虫誌」関宮教育委員会から出版する。
 - ・ 古川博二編「国立公園ジュニア六甲」(新書版, 175p. 六月社刊) 出版さる。
- 1963 ・ 明石天文科学館で古川博二, 高橋寿郎出品で「虫と貝とかたつむり展」を7月21日から8月31日迄開催。兵庫県関係の出品も多くその解説書を発行すると共に神戸新聞紙上に「ママは昆虫学者」と題する昆虫採集, 観察の方法と県下の産地の紹介を11回にわけて連載(高橋執筆)。
- ・ 戸沢信義「50年回顧録, 戸沢信義著作目録 1916-1963」自刊さる(A5, 14p.)。
 - ・ 高橋 匡「出石郡昆虫目録(第1報)」を県立出石高等学校科学部生物班会誌, Vita, 1号として出版さる。
- 1964 ・ 一色八郎編「明石の自然」六月社より出版 昭和39年 さる。
- ・ 「県下特産生物展」を明石天文科学館において7月20日から8月3日まで県生物学会が主体となって開催さる。同時に解説書も発行する。
 - ・ 兵庫県立赤穂高校生物クラブ誌「赤生」出版さる。
- 1965 ・ 東 正雄「京阪神の動物」六月社より出版。 昭和40年 西脇自然同好会々報創刊さる。
- ・ 阪神学生生物研究会々誌「Biologie」7号発行さる(創刊の時期その他詳しいこと不詳)。
 - ・ 津名昆虫同好会設立さる1967年淡路昆虫同好会に改称さる。
- 1966 ・ 紅谷進二編「兵庫の自然」六月社より出版

- 昭和41年 さる。
- 1966～1969年にわたって六甲山系ではいわゆるマツクイムシの大被害にあい緑が半減した。神戸市では森林改造事業としてカシ、スギ、モミによる緑化をすすめるよう1970年度より着手した（兵庫県生物年表）。
 - 西宮市立甲陵中学校生物部々誌“甲陵生物”創刊さる（本誌はNo.4, 1969以後のことは不詳）。
 - 兵庫県むしの会設立され“兵庫県むしの会々報”創刊されるも2号で廃刊。
 - 兵庫県植物防疫協会より“兵庫県植物防疫情報”第1号発行される。
- 1967 昭和42年
- “氷の山、後山、那岐山国立公園候補地学術調査報告書”日本自然保護協会調査報告書、32号出版さる（B5, 204p.）。
 - “但馬文教府昆虫標本目録”を刊行する（兵庫県生物年報）。
 - 大阪自然研究会より“氷の山、鉢伏山の自然研究”（変形新書版、34p.）発行さる（大阪市立自然科学博物館刊）。
 - 12月淡路昆虫同好会設立される。機関紙“Parnassius”創刊さる。連絡誌“Insect”と共に現在も発行されている。
- 1968 昭和43年
- 大阪昆虫同好会（事務所尼崎市）会誌“Crude”創刊さる。北摂関係の報文多し。
- 1969 昭和44年
- 安富中学校理科クラブ編“ホタルの研究と増殖”発行さる。
 - 県生物学会編“続・兵庫の自然”のじぎく文庫から発行される。
 - 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第1集として“日本列島の蝶”第1部発行さる（B5, 120p. 10pls.）。本書は吉阪道雄コレクションが含まれるので兵庫県の記録が大変多く含まれる（第2部は1970年発行）。
- 1970 昭和45年
- 8～9月、イチモンジセセリ大発生し、イネ科植物の葉を食害する（兵庫県生物年表）。
 - 文化庁・天然記念物緊急調査、植生図・主要動物地図28・兵庫県出版さる（33p. 地図2葉）。
- 1971 昭和46年
- 兵庫県自然保護条令できる。
 - 松喰虫の本体マツノサイセンチュウ発見さる。昭和47年その運搬者マツノマダラカミキリ発見される。
- 1972 昭和47年
- 兵庫県自然保護協会発足。会誌“兵庫県の自然”創刊さる。
 - 昆虫の生態観察をみせる県立昆虫館を佐用郡南光町船越に設立、初代館長に内海功一が就任。
 - 兵庫県自然保護協会調査資料、第1輯“扇山周辺の動物”出版さる（B5, 48p.）。
 - 山本茂信、細見滝造編“扇の山周辺の自然保護”出版さる（B5, 108p. 5map.）。
 - 西宮市自然保護利用基礎調査団より“西宮市の自然保護および利用に関する基礎調査研究報告書”出版さる。
 - 尼崎、伊丹、宝塚の各市ではボウフラ、汚水中のバクテリアなどの駆除、予防にタツプミノーを飼育し、葉の公害をなくすための効果をおさめた（兵庫県生物年表）。
 - カボチャノミバエが赤穂郡上郡富満^{トドマ}のセイヨウカボチャ、スイカ、ソウメンウリに発生した。しかしナンキンに寄生しない。1975年度は松喰虫駆除のためスミチオンを散布したためか被害が出なかった（公害、兵庫県の生物）。
 - 12月兵庫昆虫同好会結成されその機関誌“きべりはむし”創刊さる。
 - 兵庫県自然保護協会より“共存者のゆくえ——兵庫県の自然その現状”出版さる（B5, 40p.）。
 - 猪名川の自然と文化を守る会より“自然林のすべて”出版さる（B5, 41p.）。
 - 中尾淳三“大屋町の蝶相”自刊さる（11p.）。
- 1973 昭和48年
- 松喰虫の食害、戦後第2回めのピンチを迎えた。被害高は80万立方mを超えるといわれる（兵庫県生物表）。
 - 室井 綽編“垂水の自然”神戸市垂水区ライオンズクラブから出版される（B6, 196p.）。
 - 山本茂信編“兵庫県浜坂町自然の現況”出版さる（B5, 132p.）。
 - 県生活部自然課“わたしたちと自然—自然保護読本”出版さる（B5, 116p.）。
 - 岸田孝蔵他“書写山、自然への招待”出版される（A6, 48p.）。
 - “本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然

- 環境のための調査報告書, 学術調査編, 動物部門” 国立公園協会から発行される (その2は1974年に発刊)。
- 兵庫昆虫同好会連絡誌“兵庫虫報”創刊さる (3巻3号, 1975で休刊)。
 - 翌年にわたってヘリコプター5機によってマツノマダラカミキリの繁殖前の5月15日~22日, 6月11日~19日の2回, 上空10mから低毒性有機リン剤を散布する。この被害をめぐってやりとりが行なわれた (公害, 兵庫の生物)。
 - 兵庫県生活部自然課“兵庫県の自然の現状”出版さる (B5, 36p.)。
- 1974 昭和49年
- 神戸新聞学芸部編“兵庫探検, 自然編”出版さる (B5, 368p.)。
 - 西村 登他“加古川水域底生動物調査報告書”を県生活部から刊行する。
 - 室井 紳“公害・兵庫県の生物—生物変遷史”を新光出版から発行する (B6, 284p.)。
 - 兵庫・岡山・鳥取3県で“東中国山地自然環境調査報告”を出版する (B5, 310p.)。
 - 須磨区役所内須磨観光協会より“須磨アルプス~自然をたずねて”出版する。
 - 神戸女学院より同院百周年記念“岡田山の自然”出版 (B5, 163p.)。
 - 兵庫県自然保護協会より“兵庫県の自然の現状II”を出版 (B5, 78p.)。
 - 関西トンボ談話会編“近畿地方のトンボ”第1部出版さる (大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録, 第6集, B5, 27p.)。兵庫県の記録も多く含まれる (1975年第2部, p.28-53。1976年第3部, p.54-82。1977年第4部, p.83-153と発行されている)。
 - アオマツムシが神戸市内山の手にて9月下旬異常発生し, リーリーリーの大合唱, 山の手の人々がノイローゼさわぎ。バラ科を食害する。1975年も同様 (兵庫県生物年表)。
 - 田中 梓“身近な小動物”(朝日新聞社刊)出版 (B6, 228p.)。
- 1975 昭和50年
- 高橋 匡“豊岡高等学校昆虫標本目録”(第1, 2報)を同校生物教室より発行する (B5, 66p.) (本目録は1978年第5報迄出版されている)。
 - 西村 登ほか近畿地方建設局豊岡工事事務
- 所より“兵庫県円山川水底生動物調査報告書”を出版 (B5, 114p.)。
- 伊丹市立教育研究所より正木清之ほか“伊丹の昆虫”出版さる。
 - 高橋寿郎“兵庫県産甲虫類に関する文献目録”を自費出版する (B5, 16p.)。
- 1976 昭和51年
- 伊丹生物研究会結成され6月会報創刊さる。
 - 伊丹市立教育研究所より, 高田敏雄“伊丹の水生動物”出版さる (B6, 200p.)。
 - 6月, 姫路昆虫同好会結成さる。同会機関誌“てんとうむし”8月創刊さる。
 - 岩田久二雄神大名誉教授“昆虫学五十年”中公新書として出版さる。
 - 兵庫県農林部治山課より“広域基幹林道予定地域自然環境調査報告書”出版さる。昆虫は奥谷禎一博士がまとめらる。
 - 室井 紳“兵庫県生物年表”発表さる (姫路学院女子短期大学紀要, III)。
 - 兵庫県生物学会編“新・兵庫の自然”のじぎく文庫より出版 (A5, 206p.)。
 - 尼崎市立中学校理科研究会“動植物から見た尼崎市の自然”刊 (B5, 24p.)。
- 1977 昭和52年
- 西宮自然保護協会編“西宮の自然”出版さる (B6, 324p. 尚統編が1980年出版さる, B6, 279p.)。
 - 伊丹市立博物館より“昆陽池の自然” (B5, 24p.), “昆陽池生物目録” (B5, 35p.) 出版さる。
 - 関 公一死去。戦前昆虫趣味の会神戸支部長としてカミキリムシを中心に研究, 多くの論文を発表よく知られていたが戦後“新日本産天牛科目録”(1976)を発表された後昆虫界での活躍は余り見られなかった。集められたカミキリムシ科を主体とした甲虫類のコレクション8, 311点は1978年大阪市立自然史博物館に寄贈されその大部分の標本は1979年3月10日~4月29日同館で一般に公開された (Nature Study, Vol. 25, No.3)。
- 1978 昭和53年
- “大河内地点自然環境実態調査報告書”(大河内地点自然環境調査団刊)出版さる (B5, 208p.)。昆虫類は奥谷博士によってまとめられ蝶については木村三郎, 甲虫は高橋寿郎が夫々分担してまとめた。

- 岩田久二雄 “昆虫を見つめて五十年I・II” 出版さる(朝日新聞社刊)(Ⅲ, 1979, Ⅳ, 1980)。
 - 仲田元亮 “能勢の昆虫, I” 自刊さる (B5, 405p.)。
 - 兵庫県自然保護協会より “尼崎市武庫川河川敷の自然回復利用計画に関する調査報告書” 発刊さる (B5, 98p.)。
 - 県立兵庫高等学校創立七十周年生物研究部記念誌 “かぶとがに, 第8号” 出版さる (B5, 208p.)。
 - この年戸沢信義昆虫研究引退を発表さる。ハチ類12,431exs.を中心に総数34,000exs.以上の昆虫コレクションを大阪市立自然史博物館に寄贈される。この標本は1979年3月10日～4月29日同館にて一般に公開された。また同時に文献類も処分された(Nature Study, Vol.25, No.3)。
- 1979 昭和54年
- 兵庫県自然保護協会鈴蘭支部より “藍那地区自然環境調査” 出版さる (B5,60p.)。甲虫, 高橋寿郎, 蛾, 松本健嗣, 蝶, 川本 明担当。
 - 淡路自然研究保護連合会より “三熊山の自然” 出版さる (B5, 47p.)。
 - 近畿オサムシ研究グループ編 “近畿地方のオサムシ”(大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 第11集) 出版される。兵庫県下の記録も大変多い。
 - 播磨蝶友会々誌 “ひろおび” 第4号発行さる (No.1-3は会員による採集記録の集計で非売品であり実質的に本誌が創刊号に当る。No.1は1976年発行)。
 - 足立純一 “スズメバチの驚異” 自刊 (A5, 222p.)
- 1980 昭和55年
- 環境庁 “第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査(昆虫類)集計表”(B4, 89p.) 並びに “日本の重要な昆虫類, 近畿版”(B5, 642p.) 出版さる。
 - 日本野生生物研究センター “第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書(昆虫類)” 出版される (B5, 258p.)。
 - 南淡町教育委員会より “諭鶴羽山の自然” 出版さる (B5, 84p.)。
- 1981
- 高橋寿郎 “六甲山の昆虫たち” のじぎく文
- 昭和56年 庫より出版 (B6, 190p.)。
- 大阪昆虫同好会より “北摂の昆虫(I)蝶類” 出版さる (B5, 80p.)。
 - 高橋寿郎 “兵庫県産甲虫類に関する文献目録, 改訂版” 自刊する (収録文献937, B5, 44p.)。
 - 神戸市立教育研究所より加藤昌宏, 武衛晴雄著 “神戸の蝶” 出版される (A5, 121p.)。
 - 兵庫陸水生物同好会結成されその会報創刊さる。
 - 足立純一 “セグロアシナガバチの一生” 自刊 (A5, 67p.)。
 - 神戸市より “舞子ゴルフ場代替施設建設事業環境影響評価書” 出版さる (B5, 199p.)。
 - 田中 梓 “こうべ自然誌” のじぎく文庫より出版 (B6, 212p.)。
 - 淡路自然研究連合会編 “煙島の自然, 出版さる (B5, 124p.)。
 - 環境庁 “第2回自然環境保全基礎調査, 動植物分布図・兵庫県” 出版さる。
- 1982 昭和57年
- 岩田久二雄 “日本蜂類生態図鑑” 講談社より出版 (A4, 164p. 原色図版 84p.)。
 - 室井 綽, 清水八重子編 “六甲の自然” 神戸新聞出版センターより出版 (B6, 230p.)。
 - 淡路自然研究保護連合会編 “島の生きものたち, 神戸新聞出版センターより出版 (B6, 209p.)。
 - 仲田元亮 “増補改訂 能勢の昆虫” 甲虫の部・上, 下, 蝶の部, 3冊計1,265p. 収録種・甲虫1,312種, 蝶 89種. 自刊する。
 - 佐用ライオンズクラブ “千種川の生態, 第10集” A5, 39p.出版さる。千種川全域の水生生物調査が開始されて10年の総集編。
- 以上一応1982年までのものでまとめて見た。始めに記したように可成り不十分のものであると考えている。大方諸賢の御叱正, 御教示を頂くことが出来れば幸である。
- (S.45: Tosio Takahashi 神戸市)